

令和4年度 全国学力・学習状況調査



北九州市環境マスコットキャラクター
ていたん & ブラックていたん
©ていたん & ブラックていたん 北九州市

北九州市教育委員会

目 次

令和4年度 全国学力・学習状況調査 報告書

1 学力状況調査結果

- (1) 令和4年度 全国学力・学習状況調査結果について(概況)2
- (2) 学力調査結果(経年推移)3

2 各教科結果

- (1) 小学校国語6
- (2) 中学校国語7
- (3) 小学校算数8
- (4) 中学校数学9
- (5) 小学校理科10
- (6) 中学校理科11

3 学習状況調査結果

- (1) 学習状況調査結果14
- (2) 学びの育ち16
- (3) 心の育ち21

4 今後の取組26

- * 学力に影響を与える要因27

1 学力状況調査結果



(1) 令和4年度全国学力・学習状況調査結果(概況)

1 実施学年・調査内容

- ◇ 実施学年 市立の全小学校(128校)・関係特別支援学校(1校) 第6学年
市立の全中学校(62校)・関係特別支援学校(2校) 第3学年
- ◇ 調査内容 ① 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)
② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

2 調査集計者数 児童数 7,105人 生徒数 6,737人

3 調査日 令和4年4月19日(火)

主な結果

令和4年度	小学校 国語		小学校 算数		小学校 理科	
	正答数	割合	正答数	割合	正答数	割合
本市平均	8.9 / 14 問	97%	9.8 / 16 問	97%	10.4 / 17 問	97%
全国平均	9.2 / 14 問		10.1 / 16 問		10.8 / 17 問	
令和4年度	中学校 国語		中学校 数学		中学校 理科	
	正答数	割合	正答数	割合	正答数	割合
本市平均	9.3 / 14 問	96%	6.6 / 14 問	92%	9.8 / 21 問	95%
全国平均	9.7 / 14 問		7.2 / 14 問		10.4 / 21 問	

「割合」・・・全国平均正答率に対する本市の平均正答率の割合

【結果1(小学校)】

- 思考・判断・表現の正答率に改善が見られる。
(算数「思考・判断・表現」問題 R3全国比-1.8ポイント → R4全国比-0.4ポイントに改善 など)
- 知識・技能の問題に課題が見られる。
(国語「知識・技能」問題 全国比-2.7ポイント、理科「知識・技能」問題 全国比-2.5ポイント など)

【結果2(中学校)】

- 思考・判断・表現の正答率が一部全国平均と同程度だが、全体的には課題が見られる。
(国語「自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にして書く問題」 全国平均と同じ)
- 知識・技能の問題に課題が見られる。
(数学「簡単な連立方程式を解く問題」 全国比-8.5ポイント など)

【結果3(児童生徒質問紙)】

- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」が、小・中ともに前年度よりも上昇している。
(小学校前年度比+4.3ポイント、中学校前年度比+1.5ポイント)
- 「自分には、よいところがあると思いますか」が、小・中ともに前年度よりも上昇している。
(小学校前年度比+0.2ポイント、中学校前年度比+2.5ポイント)
- 全く読書をしない児童生徒(不読率)が、小・中ともに前年度に引き続き全国を下回っている。
(不読率 小学校全国比-4.9ポイント、中学校全国比-10.5ポイント)
- 「授業時間以外に、1日どれくらい勉強しますか」が、小・中ともに全国を下回っている。
(「1時間以上」小学校全国比-6.2ポイント、中学校全国比-8.1ポイント)
- 「昨年度までの授業でICT機器をどの程度使用しましたか」が、小・中ともに全国を下回っている。
(「週1回以上」小学校全国比-8.8ポイント、中学校全国比-10.5ポイント)

【考察及び今後の方向性】

- コロナ禍においても、各学校が創意工夫して授業や行事等を実施した成果が表れている。
 - ・ 授業改善や心の育ち等について、学校として組織的な取組の推進
 - ・ 「わかる授業」づくり5つのポイントの質の向上、及びICTの活用推進
 - ・ ウィズコロナにおける学校行事の精選と工夫の推進
- 「知識及び技能」の定着に課題が見られる。
 - ・ ICT機器(ドリルアプリ)の積極的な活用、及び本市研究委嘱校の実践事例の研究と発信
- 「身近に本、気軽に読書」のもと、読書活動の推進に取り組んできた成果が表れている。
 - ・ 学校図書館の学習センター・情報センターとしての機能の充実、及び公共図書館との連携の推進

(2) 学力調査結果(経年推移) ※各教科

■ 各教科における本市と全国の平均正答率及び本市の全国平均正答率に対する割合(平成26年度～令和4年度)

小学校		国語A	国語B	算数A	算数B	理科	合計	中学校		国語A	国語B	数学A	数学B	理科	英語	合計
H26 年度	本市	69	53	76	55		253	H26 年度	本市	77	48	62	54			242
	全国	73	56	78	58		265		全国	79	51	67	60			258
	対全国比	95%	95%	98%	95%		96%		対全国比	97%	93%	93%	91%			94%
H27 年度	本市	67	62	73	44	57	303	H27 年度	本市	74	63	62	38	50		287
	全国	70	65	75	45	61	316		全国	76	66	64	42	53		301
	対全国比	96%	95%	98%	97%	95%	96%		対全国比	97%	96%	96%	91%	94%		95%
H28 年度	本市	70	56	76	45		246	H28 年度	本市	74	64	59	41			237
	全国	73	58	78	47		256		全国	76	67	62	44			248
	対全国比	96%	96%	98%	95%		96%		対全国比	97%	96%	95%	93%			96%
H29 年度	本市	74	57	77	44		252	H29 年度	本市	77	70	62	45			254
	全国	75	58	79	46		257		全国	77	72	65	48			262
	対全国比	98%	99%	98%	97%		98%		対全国比	99%	98%	95%	94%			97%
H30 年度	本市	71	54	61	50	60	296	H30 年度	本市	75	60	63	44	64		306
	全国	71	55	64	52	60	301		全国	76	61	66	47	66		316
	対全国比	101%	99%	96%	96%	99%	98%		対全国比	99%	99%	95%	93%	97%		97%
H31 年度	本市	65		64			129	H31 年度	本市	69		56			51	176
	全国	64		67			131		全国	73		60			56	189
	対全国比	102%		96%			98%		対全国比	95%		93%			91%	93%
R3 年度	本市	63		69			132	R3 年度	本市	63		55				118
	全国	65		70			135		全国	65		57				122
	対全国比	97%		98%			98%		対全国比	97%		96%				97%
R4 年度	本市	64		61		61	186	R4 年度	本市	66		47		47		160
	全国	66		63		63	192		全国	69		51		49		169
	対全国比	97%		97%		97%	97%		対全国比	96%		92%		95%		94%

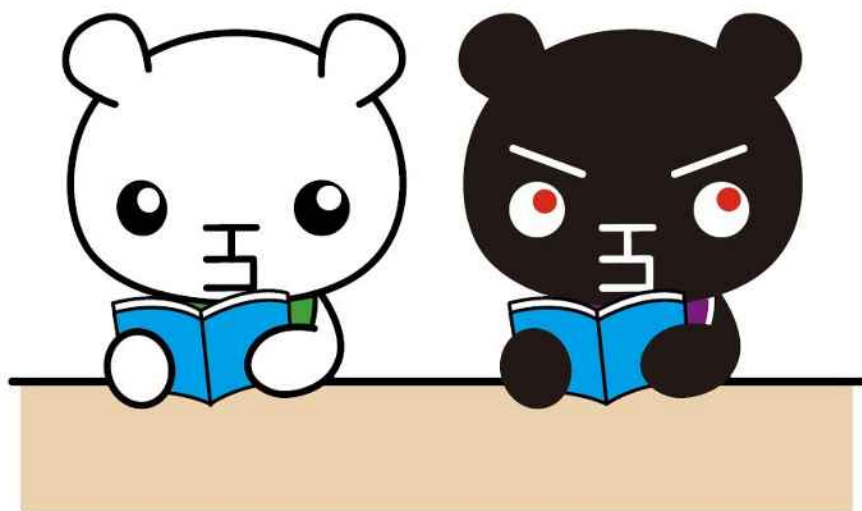
※ 正答率と対全国比は詳細な数値で計算をしているが、表記は小数第一位を四捨五入し整数値にしている。

※ H24年度は、抽出調査及び希望調査利用方式で実施された。本市では全小・中学校・関係特別支援学校で実施。

※ H31年度より従来のA問題(知識・技能等)とB問題(活用等)という区分を見直し、知識・活用を一体的に問う調査問題としている。

※ R2年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、未実施。

2 各教科結果

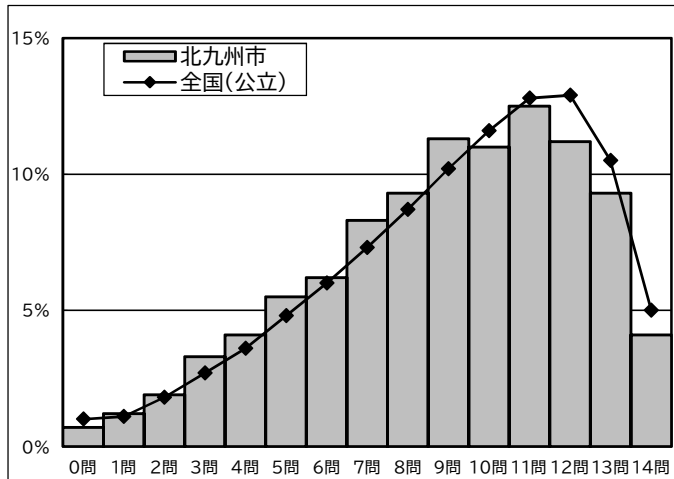


(1) 小学校 国語

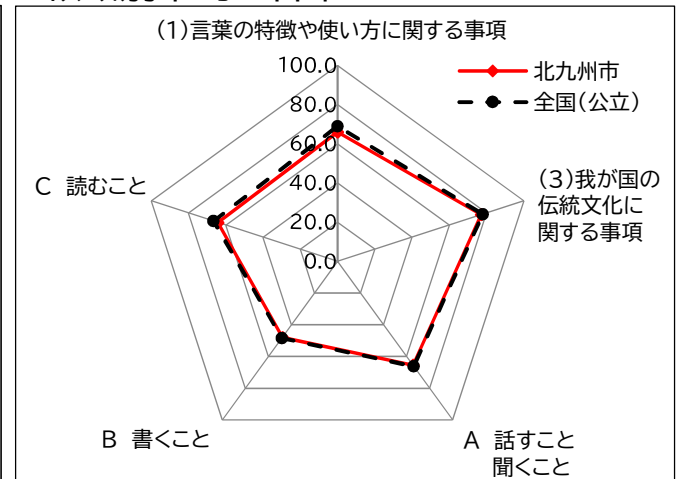
令和4年度 全国学力・学習状況調査 結果 [小学校 国語] <集計値>

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北九州市教育委員会	7,105	8.9 /14	64	9.0	3.2
全国(公立)	965,308	9.2 /14	66	10.0	3.3

<正答数分布グラフ>

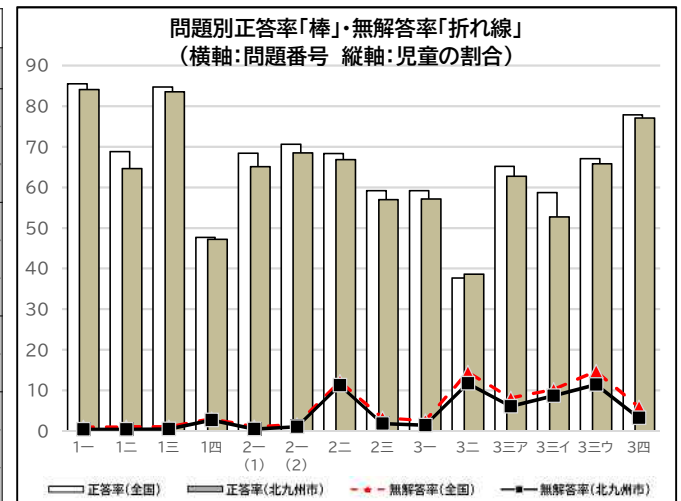


<領域別平均正答率>



<区分別平均正答率の状況>

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)	
			北九州市	全国 (公立)
学習指導要領 の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	66.0	69.0
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	0	
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	77.1	77.9
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	65.4	66.2
		B 書くこと	47.9	48.5
		C 読むこと	64.3	66.6
評価の観点	知識・技能	6	67.8	70.5
	思考・判断・表現	8	60.5	62.0
問題形式	選択式	8	69.6	71.8
	短答式	3	60.4	63.6
	記述式	3	50.9	51.3



<課題の見られた問題>

- 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができるかどうかをみる問題。
 【問題2一(1)正答率 全国68.4% → 本市65.1%】

<課題改善に向けて>

【授業改善の視点】

登場人物の気持ちを捉える場面では、児童が複数の叙述に着目することができるように、捉えたことと、基にした叙述について交流する活動を意図的に設定する。

【補充的な取組】

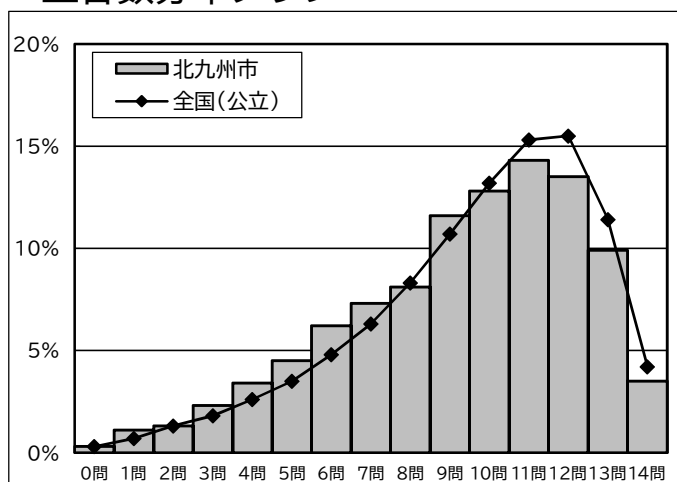
必要に応じてICT機器を活用するなど、補充的な学習に取り組む時間を設定し、「個別最適な学び」を充実する。

(2) 中学校 国語

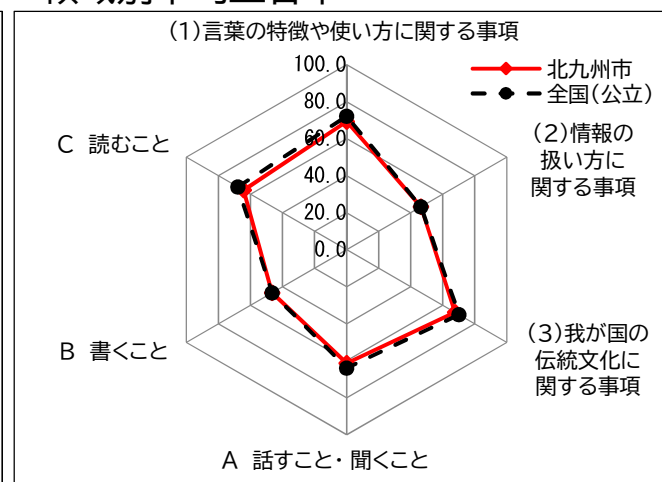
令和4年度 全国学力・学習状況調査 結果〔中学校 国語〕 ＜集計値＞

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北九州市教育委員会	6,729	9.3 /14	66	10.0	3.0
全国(公立)	891,820	9.7 /14	69	10.0	2.9

＜正答数分布グラフ＞

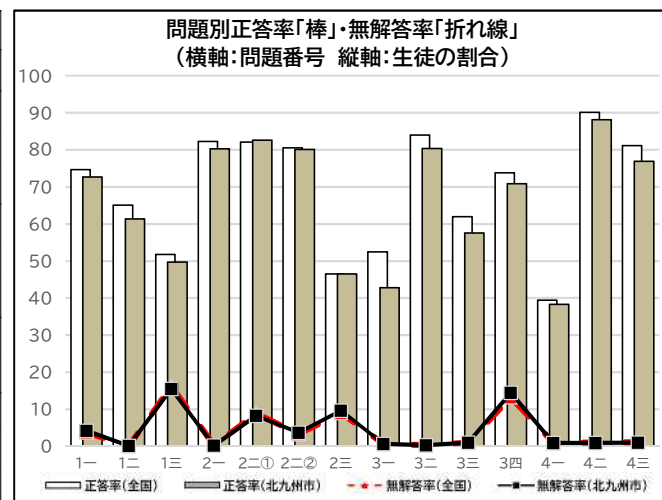


＜領域別平均正答率＞



＜区分別平均正答率の状況＞

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)	
			北九州市	全国 (公立)
学習指導要領 の内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	69.3	72.2
		(2) 情報の扱い方に 関する事項	46.5	46.5
		(3) 我が国の言語文化に 関する事項	67.7	70.2
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	61.3	63.9
		B 書くこと	46.5	46.5
		C 読むこと	64.3	67.9
評価の観点	知識・技能	10	66.6	69.0
	思考・判断・表現	6	59.8	62.3
問題形式	選択式	6	70.9	73.7
	短答式	5	67.2	70.3
	記述式	3	55.7	57.4



＜課題の見られた問題＞

- 表現の技法について理解しているかどうかをみる問題。
【問題3-1 正答率 全国52.5%→本市42.8%】

＜課題改善に向けて＞

【授業改善の視点】

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの学習の中で、表現の技法を取り上げたり、話や文章の中で使わせたりして、関連付けた指導をする。

【補充的な取組】

俳句や短歌、詩や小説のほか、歌の歌詞や人との会話などから見聞きした表現の技法を、種類ごとに分類し、それぞれの表現の仕方や効果の違いについて考えたりまとめたりする。

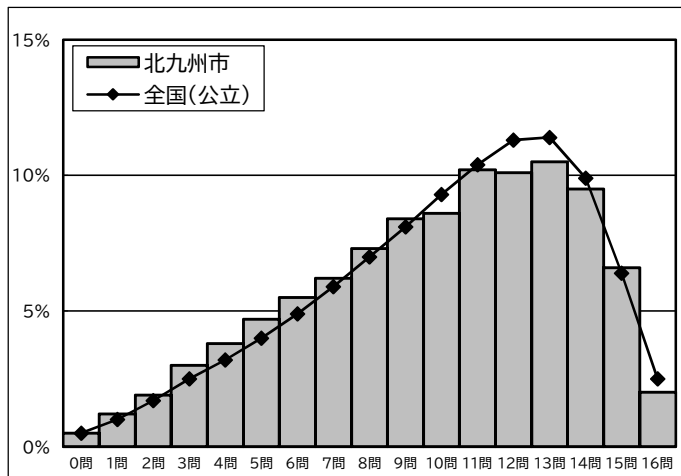
(3) 小学校 算数

令和4年度 全国学力・学習状況調査 結果 [小学校 算数]

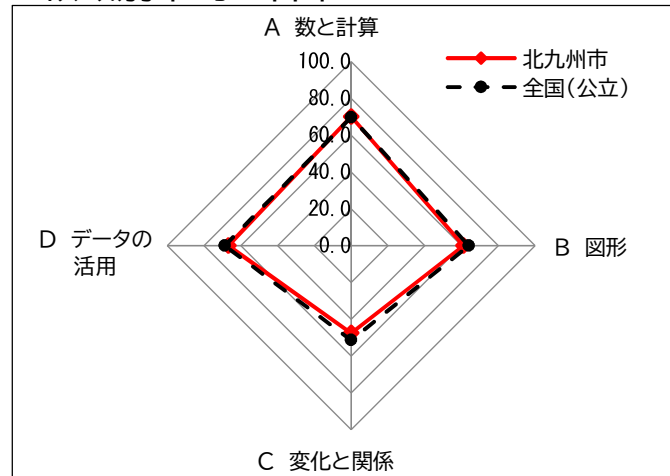
<集計値>

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北九州市教育委員会	7,096	9.8 /16	61	10.0	3.7
全国(公立)	965,431	10.1 /16	63	11.0	3.6

<正答数分布グラフ>

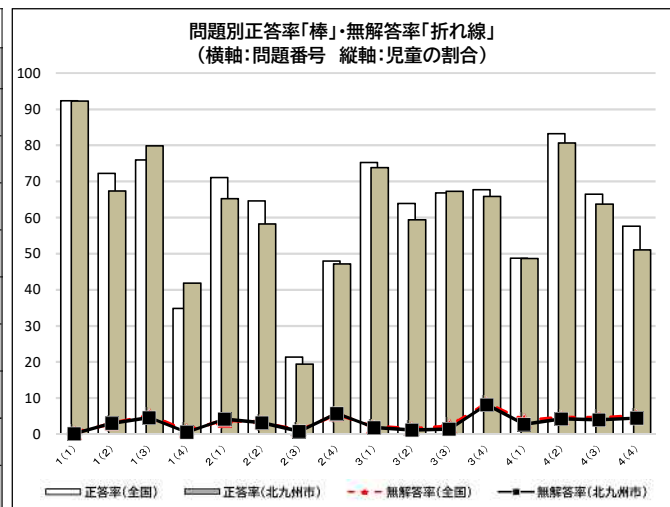


<領域別平均正答率>



<区分別平均正答率の状況>

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)	
			北九州市	全国 (公立)
学習指導要領 の領域	A 数と計算	6	70.2	69.8
	B 図形	4	61.1	64.0
	C 変化と関係	4	47.5	51.3
	D データの活用	3	66.8	68.7
評価の観点	知識・技能	9	65.3	68.2
	思考・判断・表現	7	56.3	56.7
問題形式	選択式	6	50.5	51.8
	短答式	6	72.9	76.5
	記述式	4	60.4	60.2



<課題のみられた問題>

- 百分率で表された割合について、「分数で表す」「比較量を求める」ことができるかどうかをみる問題。
【問題2(1)正答率 全国71.1% → 本市65.2% 問題2(2)正答率 全国64.6% → 本市58.2%】

<課題改善に向けて>

【授業改善の視点】

児童に、日常生活の場面を想定させながら割合について理解させたり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりすることができるように指導する。

【補充的な取組】

授業の終末や自主学習等で、練習問題に取り組む時間を確保して、学習内容の定着を図る。

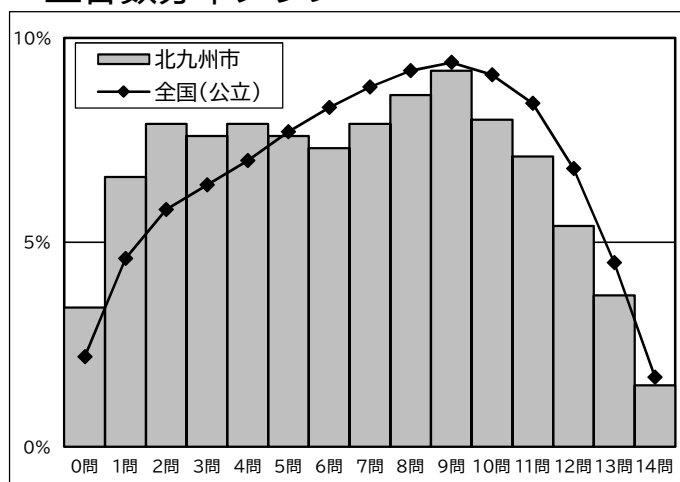
(4) 中学校 数学

令和4年度 全国学力・学習状況調査 結果〔中学校 数学〕

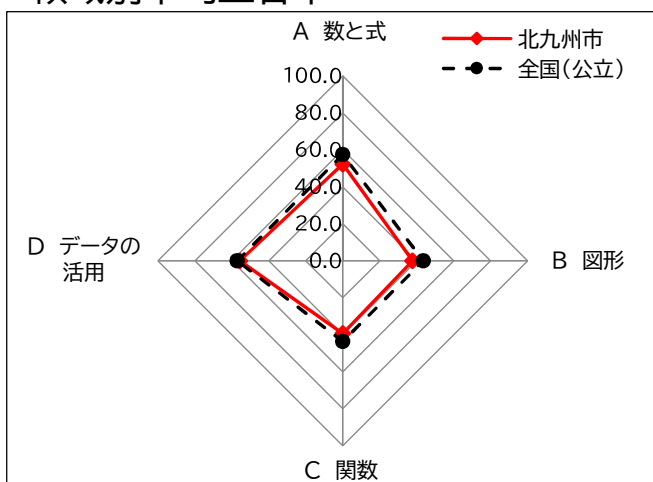
<集計値>

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北九州市教育委員会	6,733	6.6 /14	47	7.0	3.7
全国(公立)	891,913	7.2 /14	51	7.0	3.6

<正答数分布グラフ>

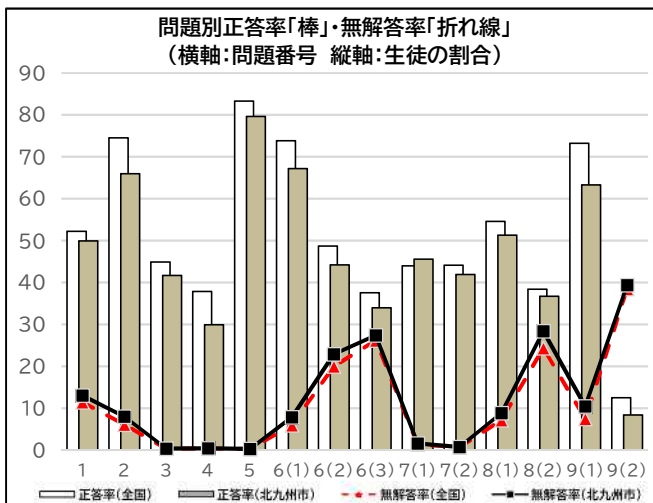


<領域別平均正答率>



<区分別平均正答率の状況>

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)	
			北九州市	全国 (公立)
学習指導要領 の領域	A 数と式	5	52.3	57.4
	B 図形	3	37.8	43.6
	C 関数	3	39.3	43.6
	D データの活用	3	55.7	57.1
評価の観点	知識・技能	9	54.5	59.9
	思考・判断・表現	5	33.8	36.2
問題形式	選択式	4	48.3	52.6
	短答式	5	59.5	65.7
	記述式	5	33.8	36.2



<課題の見られた問題>

- 簡単な連立二元一次方程式を解くことができるかどうかをみる問題。

【問題2の正答率 全国74.5% → 本市66.0%】

<課題改善に向けて>

【授業改善の視点】

連立方程式を解く際、加減法や代入法、どちらの方法も一元一次方程式に帰着させて解くという考えに生徒自らが気付くように、解き方を比較しながら指導する。

【補足的な取組】

「知識・技能」の定着に向け、ドリルアプリ等を活用し、補充学習の充実を図る。

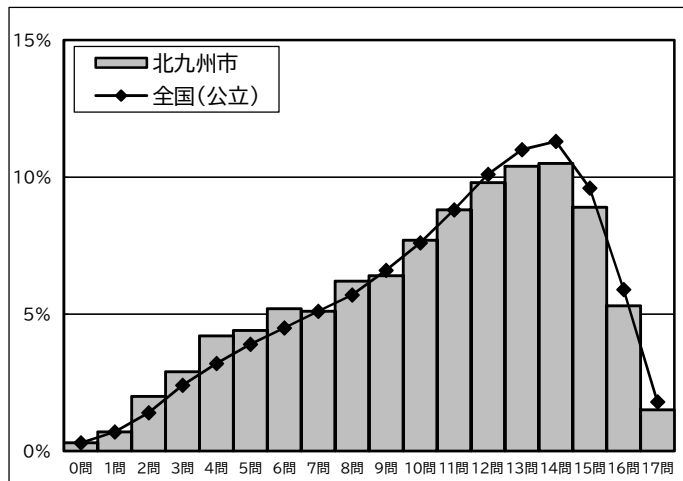
(5) 小学校 理科

令和4年度 全国学力・学習状況調査 結果 [小学校 理科]

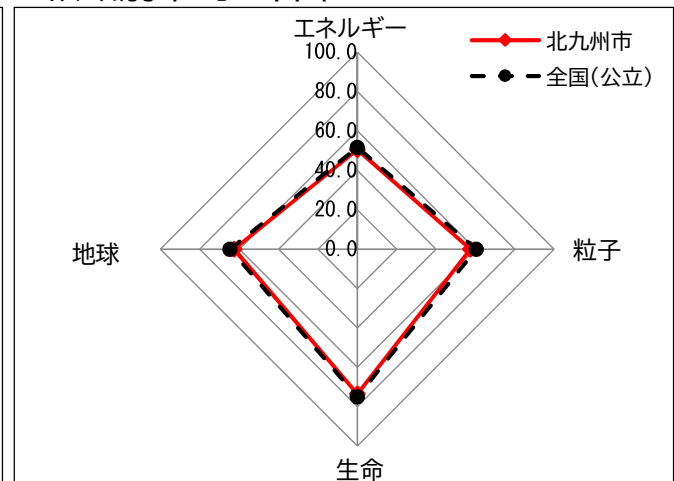
<集計値>

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北九州市教育委員会	7,097	10.4 /17	61	11.0	3.9
全国(公立)	965,761	10.8 /17	63	11.0	3.8

<正答数分布グラフ>

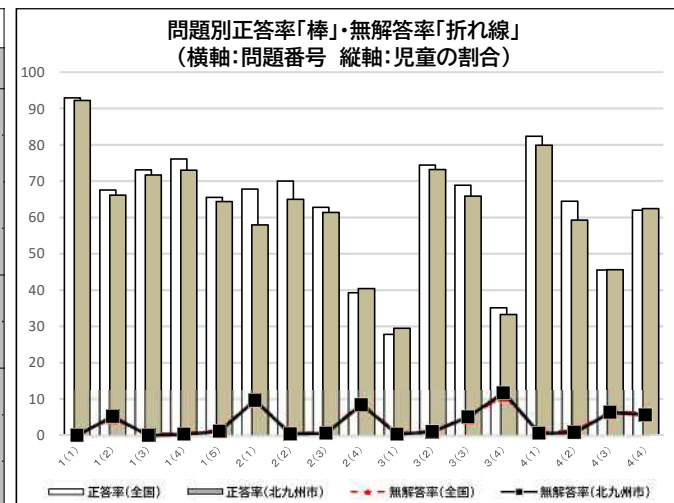


<領域別平均正答率>



<区分別平均正答率の状況>

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)	
			北九州市	全国 (公立)
学習指導要領 の領域	「エネルギー」を柱とする領域	4	50.5	51.6
	「粒子」を柱とする領域	5	57.4	60.4
	「生命」を柱とする領域	5	73.5	75.0
	「地球」を柱とする領域	5	62.6	64.6
評価の観点	知識・技能	6	60.0	62.5
	思考・判断・表現	11	61.9	63.7
問題形式	選択式	11	65.0	66.8
	短答式	3	62.0	66.2
	記述式	3	46.6	47.3



<課題の見られた問題>

- 実験器具(メスシリンダー)を理解し、器具の正しい扱い方を身に付けているかどうかをみる問題。
【問題2(1)正答率 全国67.8% → 本市57.9% 問題2(2)正答率 全国70.0% → 本市65.0%】

<課題改善に向けて>

【授業改善の視点】

観察、実験の技能が身に付くように、器具や機器の操作手順とあわせて、考えることができるように指導する。また、意図的に、児童に実験器具や機器を目的に応じて選択させるような場面を設定する。

【補充的な取組】

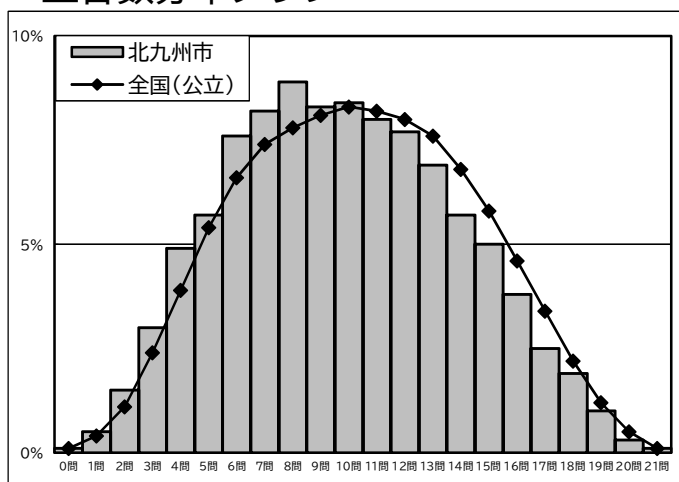
理科室掲示や保管場所に器具の名称を示すなど、児童が目にする機会を増やすなどの工夫を行う。

(6) 中学校 理科

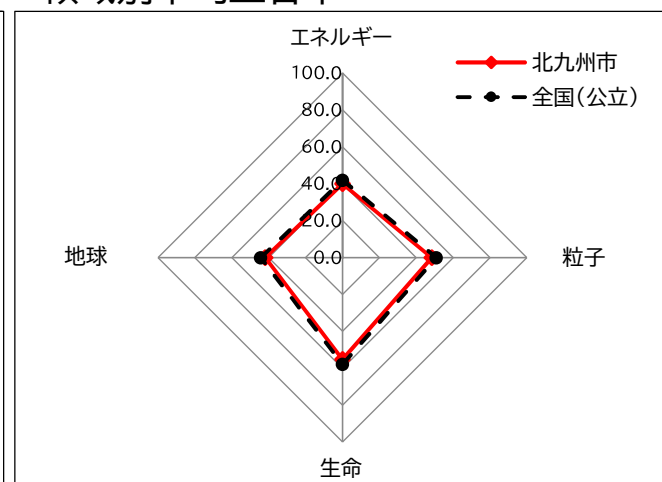
令和4年度 全国学力・学習状況調査 結果〔中学校 理科〕 ＜集計値＞

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北九州市教育委員会	6,737	9.8 /21	47	10.0	4.1
全国(公立)	892,585	10.4 /21	49	10.0	4.1

＜正答数分布グラフ＞

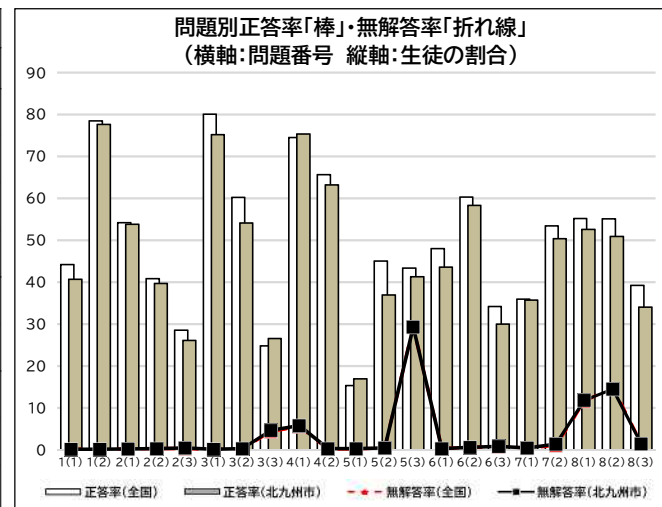


＜領域別平均正答率＞



＜区分別平均正答率の状況＞

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)	
			北九州市	全国 (公立)
学習指導要領 の領域	「エネルギー」を柱とする領域	6	40.0	41.9
	「粒子」を柱とする領域	5	48.4	50.9
	「生命」を柱とする領域	5	55.2	57.9
	「地球」を柱とする領域	6	41.9	44.3
評価の観点	知識・技能	7	43.2	46.1
	思考・判断・表現	14	48.6	51.0
問題形式	選択式	15	46.8	49.6
	短答式	1	26.5	24.8
	記述式	5	50.8	53.5



＜課題の見られた問題＞

- 考察の妥当性を高めるために、実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる問題。
【問題5(3)正答率 全国43.3% → 本市41.3% 問題2(3)正答率 全国28.5% → 本市26.1%】

＜課題改善に向けて＞

【授業改善の視点】

実験結果の処理について振り返りを行い、実験の計画を検討して改善を図るようにする。また、予想を立てたり、考察したりする場面で、自分の考えを書いたり、表現したりする時間を確保する。

【補充的な取組】

博物館や科学センター(スペースラボ)などの施設を利用した学習活動を計画する。

